

# 2021年3月 決算説明会用資料

The logo for RHEON, featuring the word "RHEON" in a stylized, handwritten-style font with a registered trademark symbol (®) to the right.

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード（6272）

このたび、新型コロナウイルス感染症により影響を受けられている皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、医療従事者の方々をはじめ、感染拡大防止に取り組んでおられる皆様に心より感謝申し上げます。

## ◆ 目 次

---

- 1** 2020年度 連結決算概況 …… **P4**
- 2** 2021年度 連結業績予想 …… **P17**
- 3** 中期経営計画 3年目進捗 …… **P28**  
( 2018年度 ~ 2022年度 )

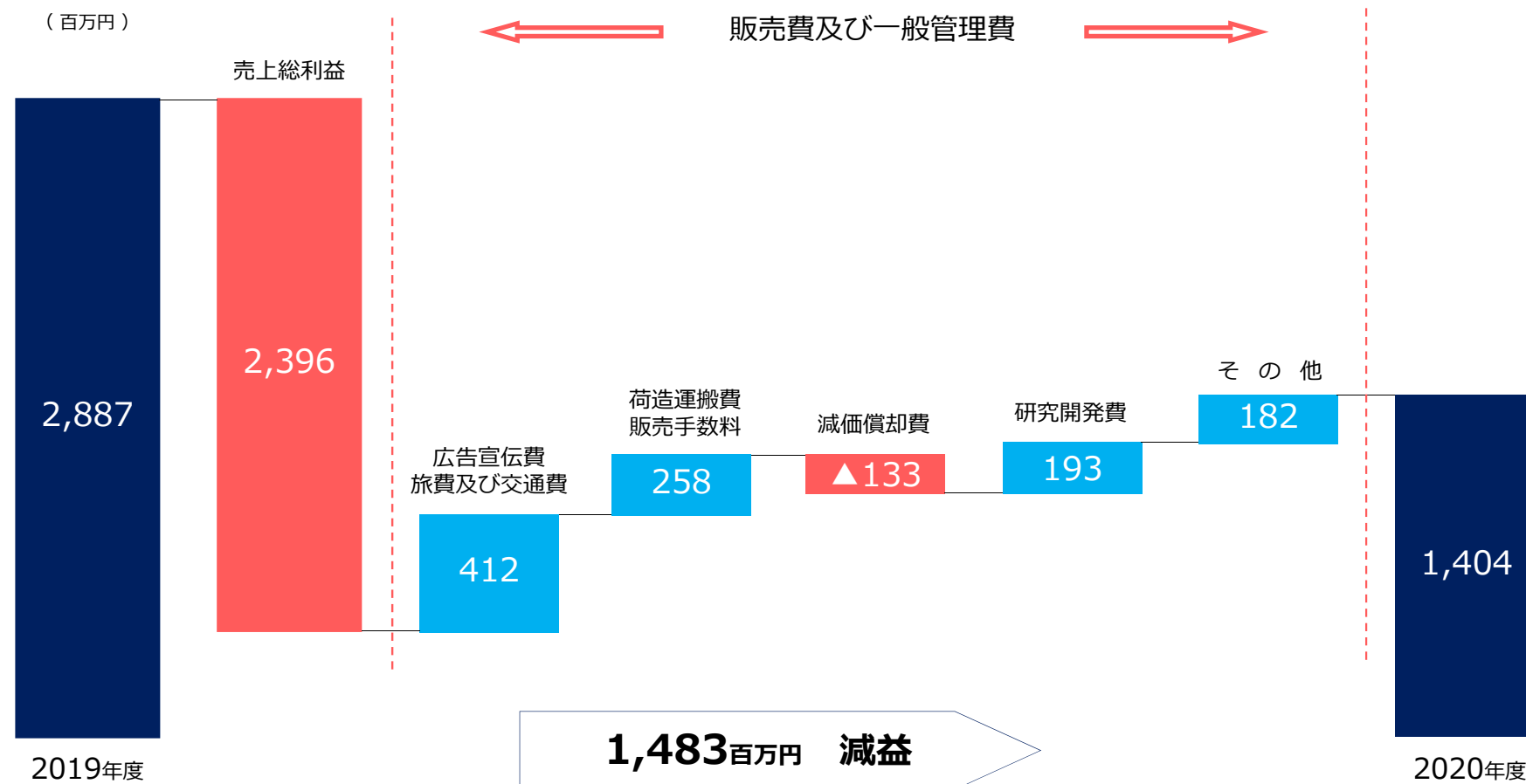
# ① 2020年度 連結決算概況

## ◆ 連結計算書サマリー

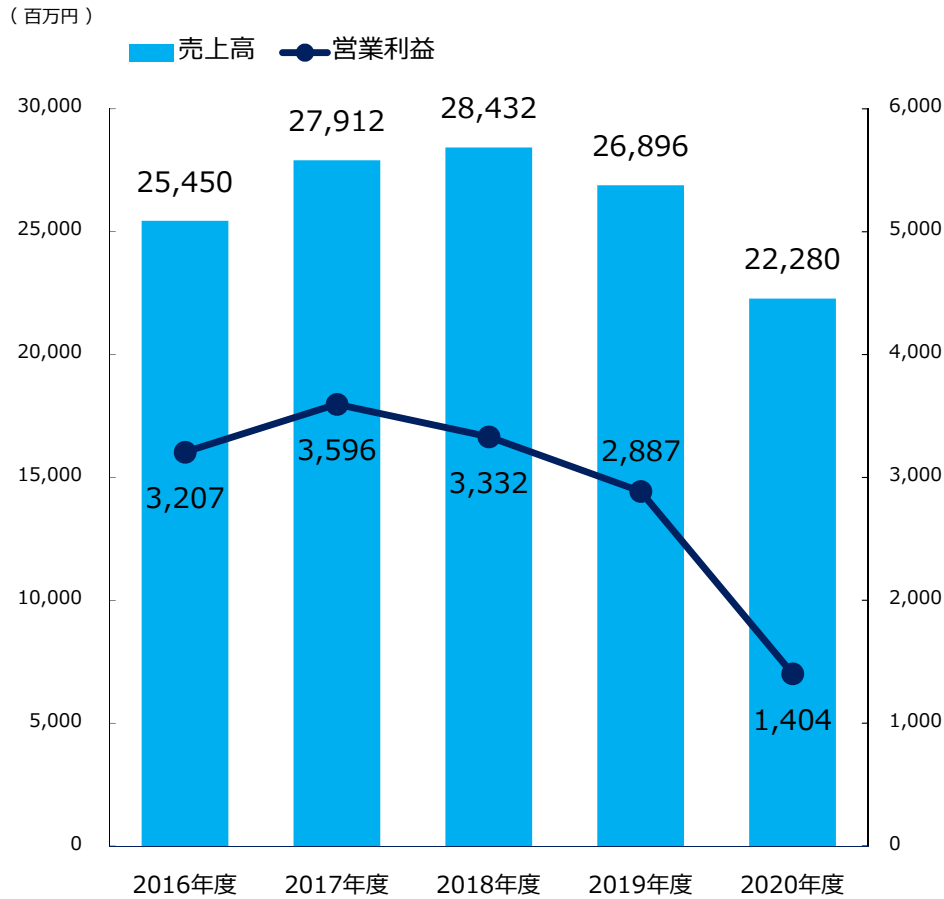
(百万円)	2019年度 実績	2020年度 計画 (2020年11月10日)	2020年度 実績 ※1	前年比
売上高	26,896	22,090	22,280	▲ 17.2 %
営業利益	2,887	1,060	1,404	▲ 51.4 %
経常利益	2,933	1,120	1,622	▲ 44.7 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,971	1,400	1,608	▲ 18.4 %
ROE	8.1 %	—	6.3 %	—
EPS	73.59 円	52.24 円	60.03 円	—
配当	22.00 円	15.00 円	17.00 円	—

※1 期中平均為替レート : USドル = 106.06 円 ユーロ = 123.70 円

## ◆ 営業利益増減



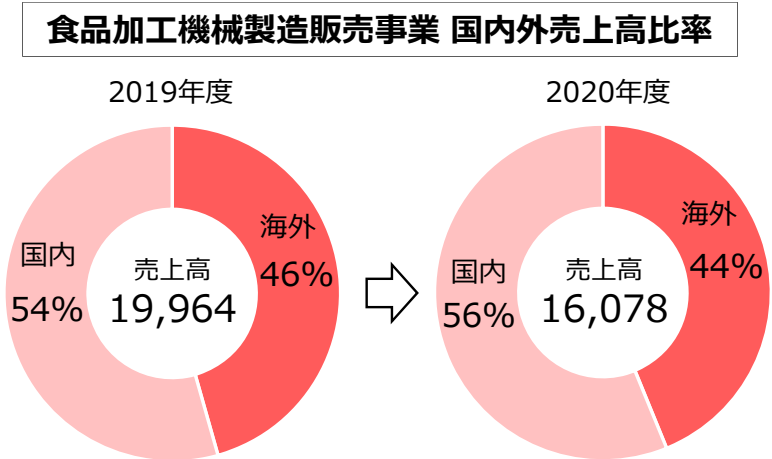
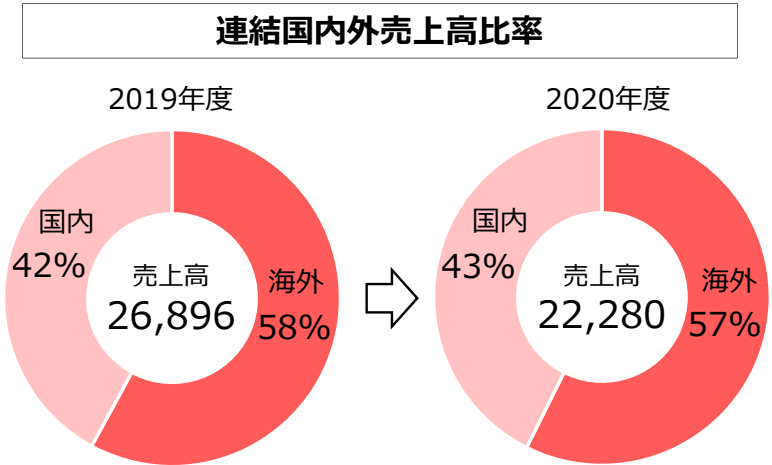
# ◆ 過去5年の業績推移



USドル	108.38 円	110.85 円	110.91 円	108.74 円	106.06 円
ユーロ	118.79 円	129.70 円	128.41 円	120.82 円	123.70 円



(百万円)



# ◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

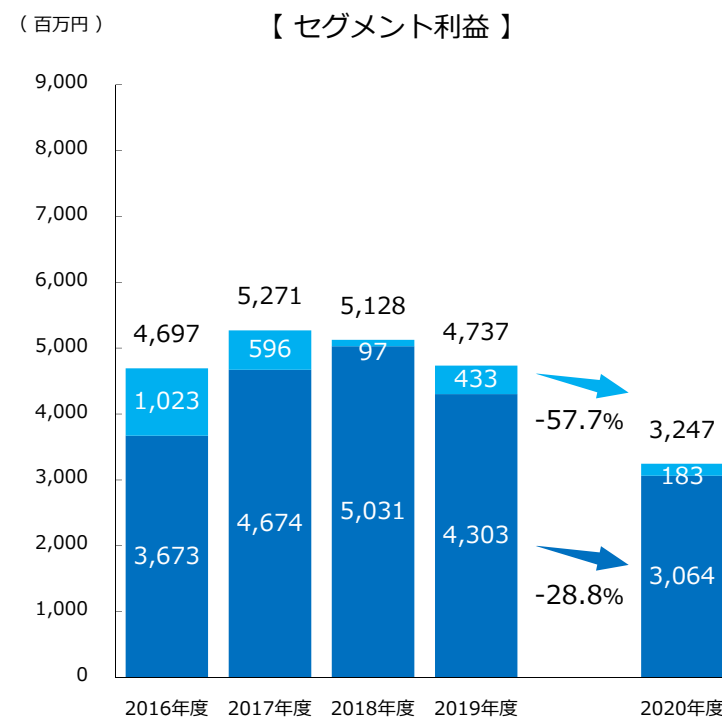
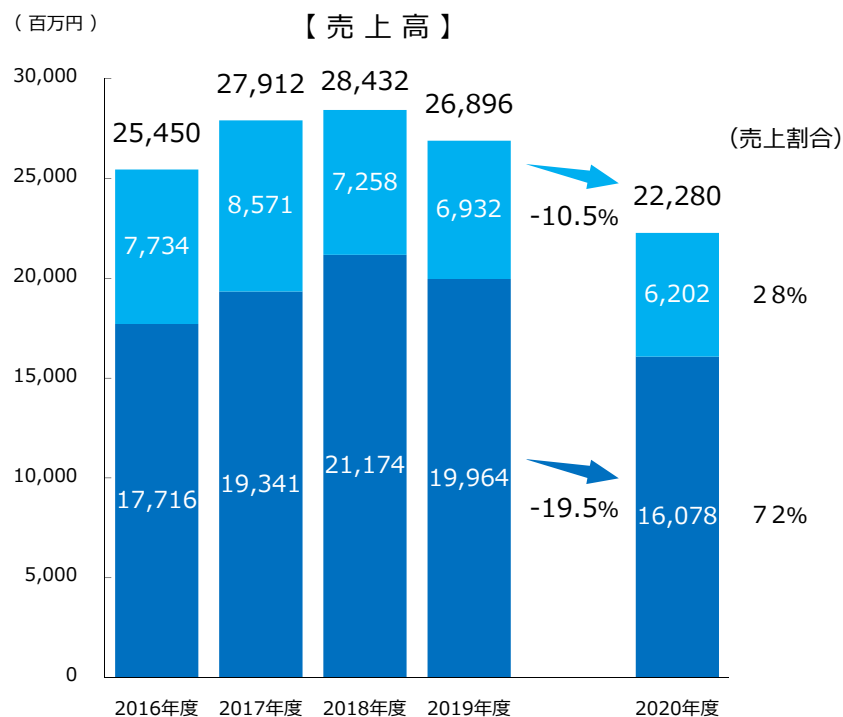
食品加工機械製造販売事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光土産及び外食産業への販売機会が減少。

食品製造販売事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、外食産業への販売機会が減少。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

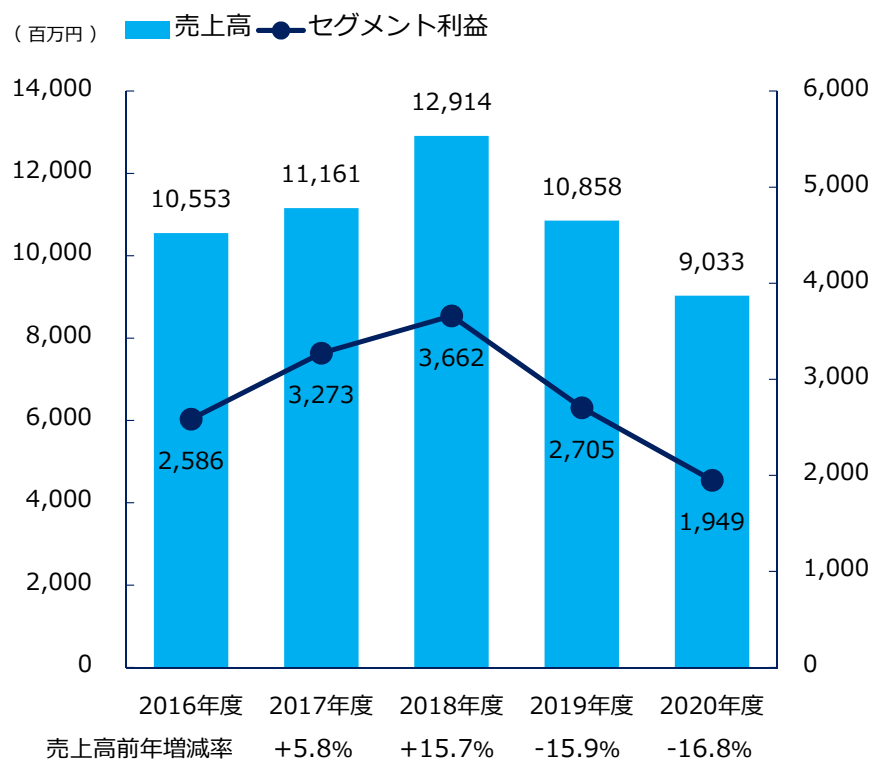




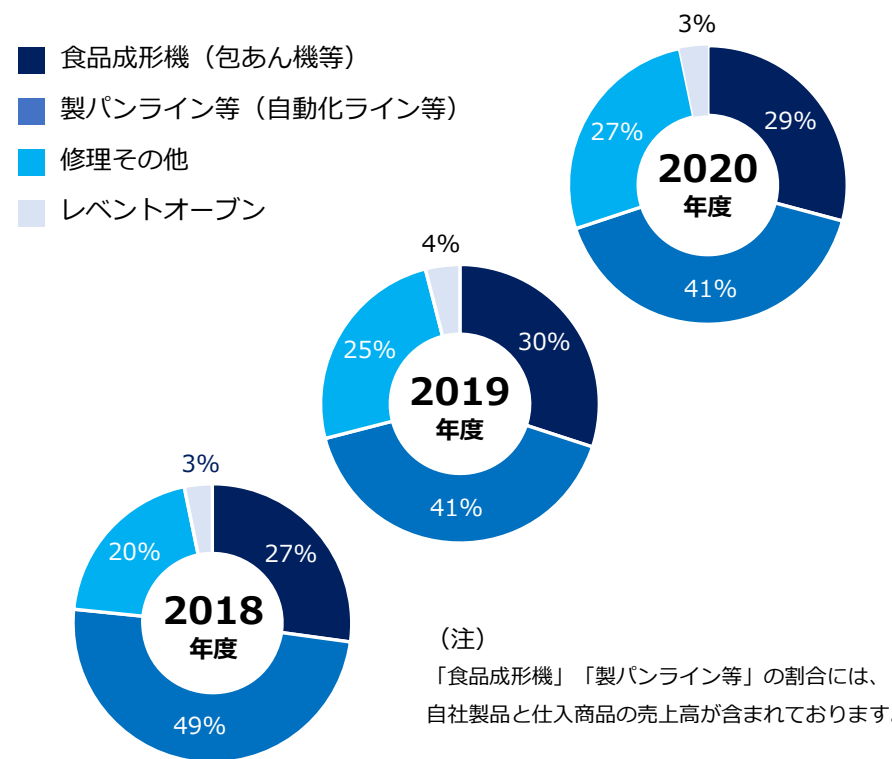
## ◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去5年 売上高・セグメント利益／売上高内訳 》

大型展示会の中止、講習会などの営業活動の制限により、既存顧客への営業進捗の遅れ、新規顧客の見込みが上がりず全体的に売上が減少。

### 売上高・セグメント利益



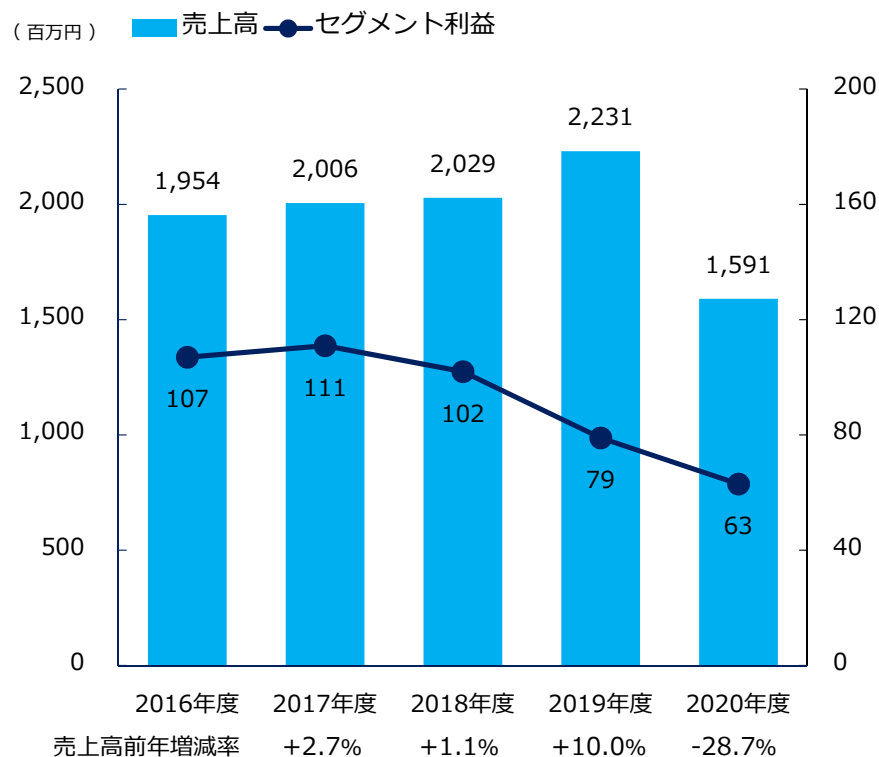
### 売上高内訳



## ◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去5年 売上高・セグメント利益／売上高内訳 》

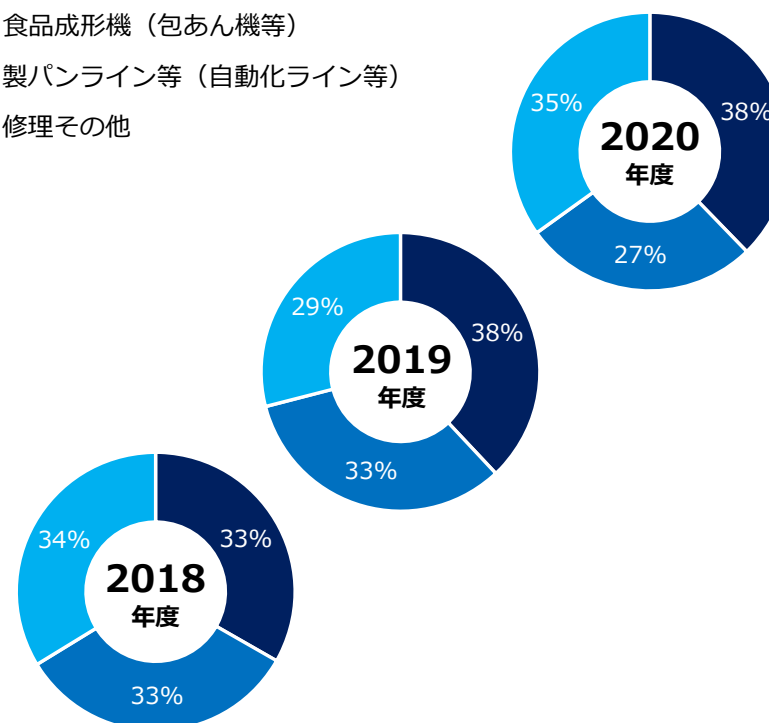
大型自動化ラインの商談の延期や中止、中小ラインの投資計画の延期、海上輸送の遅延によるお客様への機械搬入が出来なかったなどの要因により売上が減少。

### 売上高・セグメント利益



### 売上高内訳

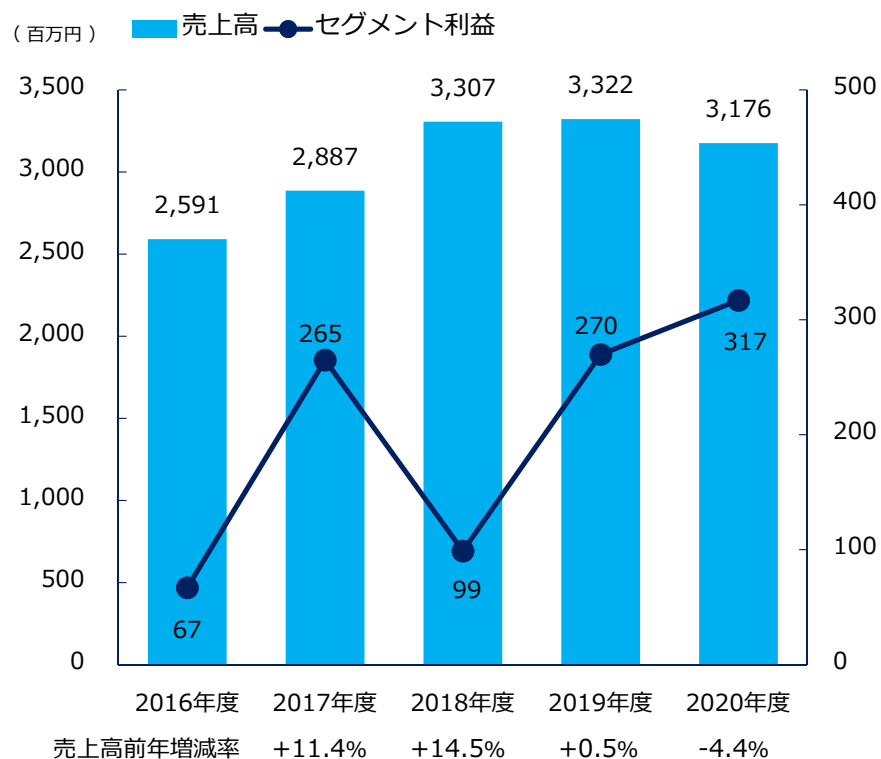
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



## ◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《 過去5年 売上高・セグメント利益／売上高内訳 》

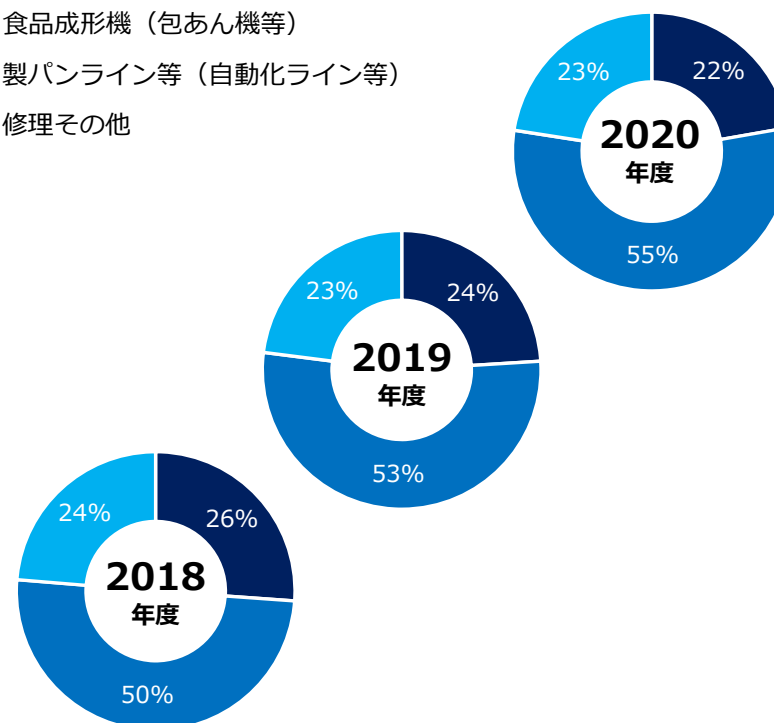
巣ごもり需要の影響でベーカリーや冷凍食品メーカーによる受注、各国代理店の販売活動やWebの活用などにより、製パンラインを中心に売上全体の落ち込みを抑制。

### 売上高・セグメント利益



### 売上高内訳

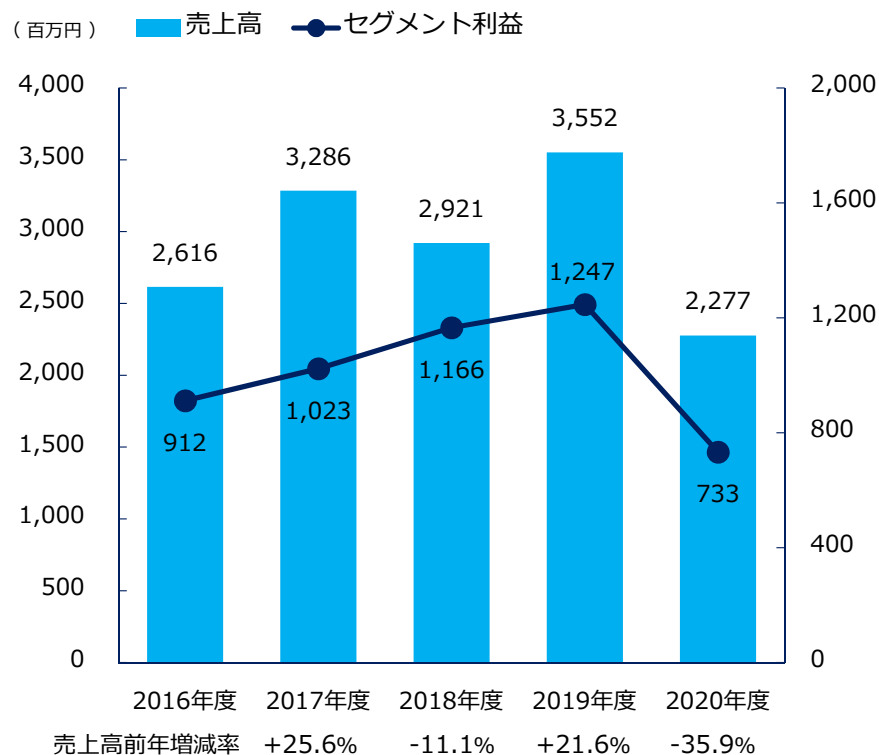
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



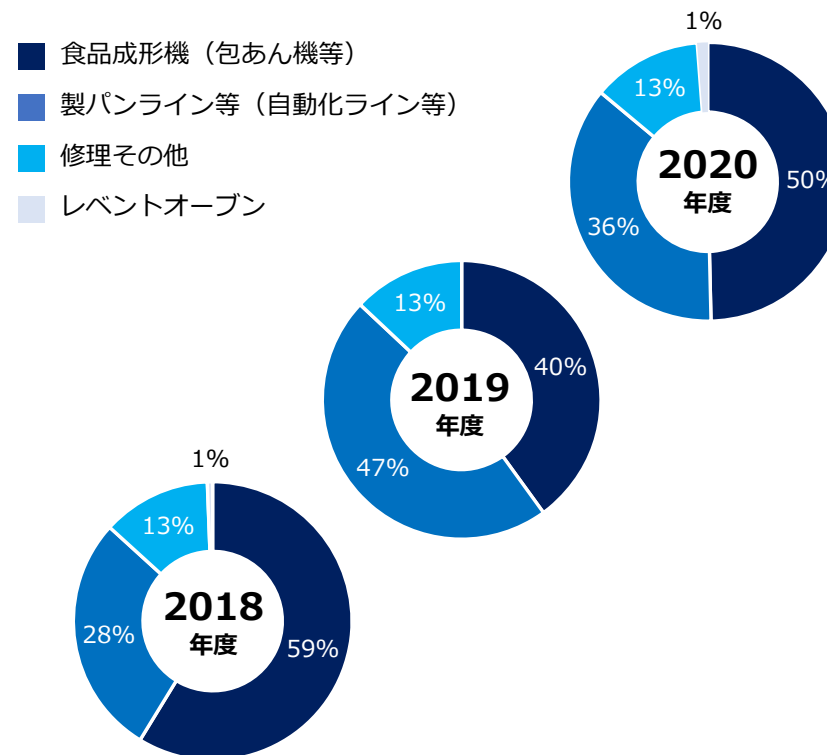
## ◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年 売上高・セグメント利益／売上高内訳 》

本社スタッフが現地に赴けなかったこと、お客様による機械確認テストが出来なかったなどの要因により、販売機会が減少したため売上が減少。

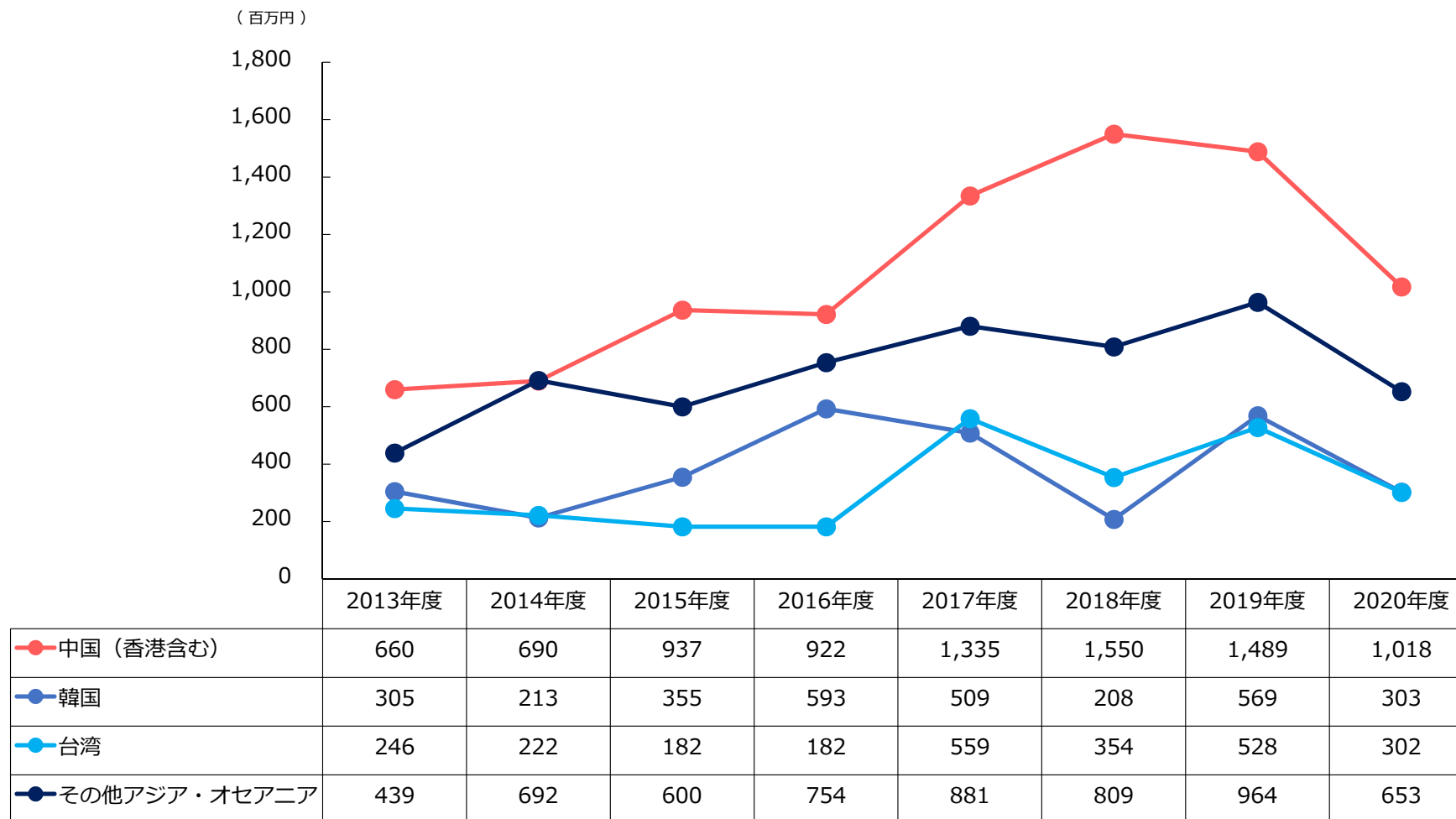
### 売上高・セグメント利益



### 売上高内訳



## ◆ アジア国別 売上高推移



## ◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

### 売上高

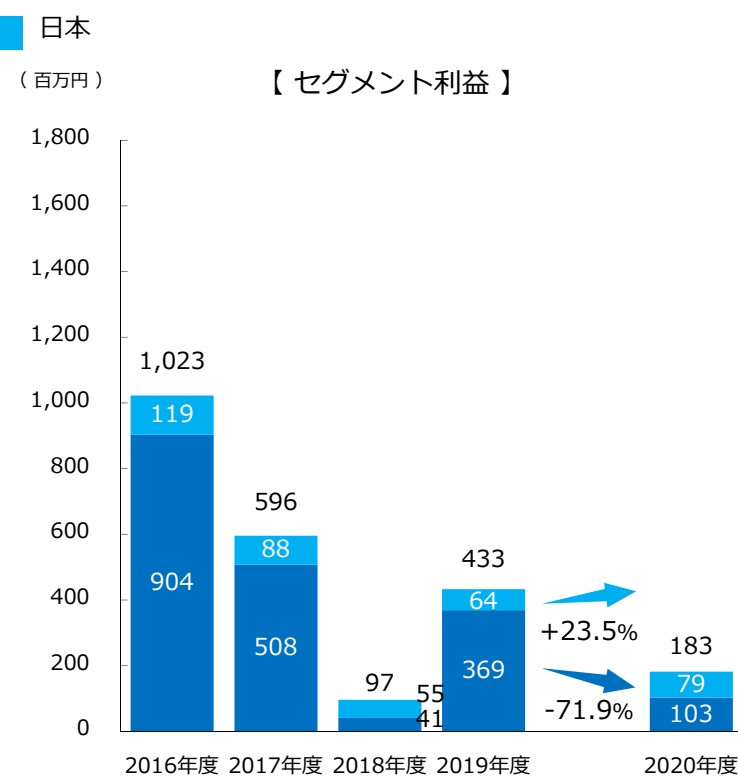
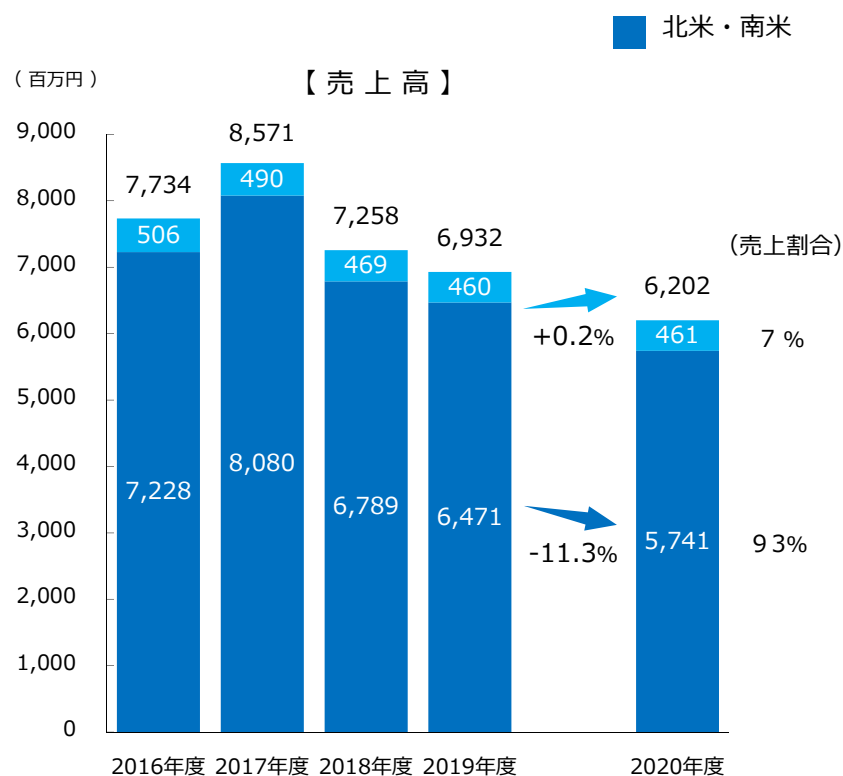
- 北米・南米
- 日本

新型コロナウイルス感染症の影響により、レストランや大手食品卸業社向けの売上が減少。大手顧客の発注は戻るが、土産用のパン種の販売が振るわず前年とほぼ同様。

### セグメント利益

- 北米・南米
- 日本

第1四半期での赤字や原材料の値上がり、輸送コストの上昇などにより利益が減少。展示会費用などの販売費が減少したことにより利益が増加。



## ◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2019年度		2020年度			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	31,627	100 %	34,124	100 %	7.9 %	—
流動資産	14,163	44.8 %	16,961	49.7 %	19.7 %	● 手許資金の確保に努め、現金及び預金の増加 など
固定資産	17,463	55.2 %	17,163	50.3 %	▲1.7 %	● 東京営業所の売却等により有形固定資産の減少 など
負債合計	6,809	21.5 %	7,492	22.0 %	10.0 %	—
流動負債	5,344	16.9 %	5,078	14.9 %	▲5.0 %	● 前受金の減少 ● 賞与引当金の減少 など
固定負債	1,465	4.6 %	2,413	7.1 %	64.7 %	● 長期借入金の増加 ● 長期繰延税金負債の増加 など
純資産合計	24,817	78.5 %	26,632	78.0 %	7.3 %	● 土地再評価差額金の取崩の減少 ● 利益剰余金の減少 など
負債純資産合計	31,627	100 %	34,124	100 %	7.9 %	—

## ◆ 連結キャッシュ・フローサマリー

(百万円)	2019年度	2020年度	主な増減要因
現金及び現金同等物の 期首残高	7,466	4,820	—
営業活動によるCF	1,277	2,715	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 税金等調整前当期純利益 1,989</li> <li>● 減価償却費 1,112</li> <li>● 法人税等 ▲675</li> </ul>
投資活動によるCF	▲2,957	▲573	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 有形固定資産の売却 1,262</li> <li>● 有形固定資産の取得 ▲1,374</li> </ul>
財務活動によるCF	▲910	380	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期借入れによる収入 1,200</li> <li>● 長期借入金の返済 ▲367</li> </ul>
現金及び現金同等物の 増減額	▲2,646	2,663	—
現金及び現金同等物の 期末残高	4,820	7,484	—



2

## 2021年度 連結業績予想

## ◆2021年度 連結業績予想

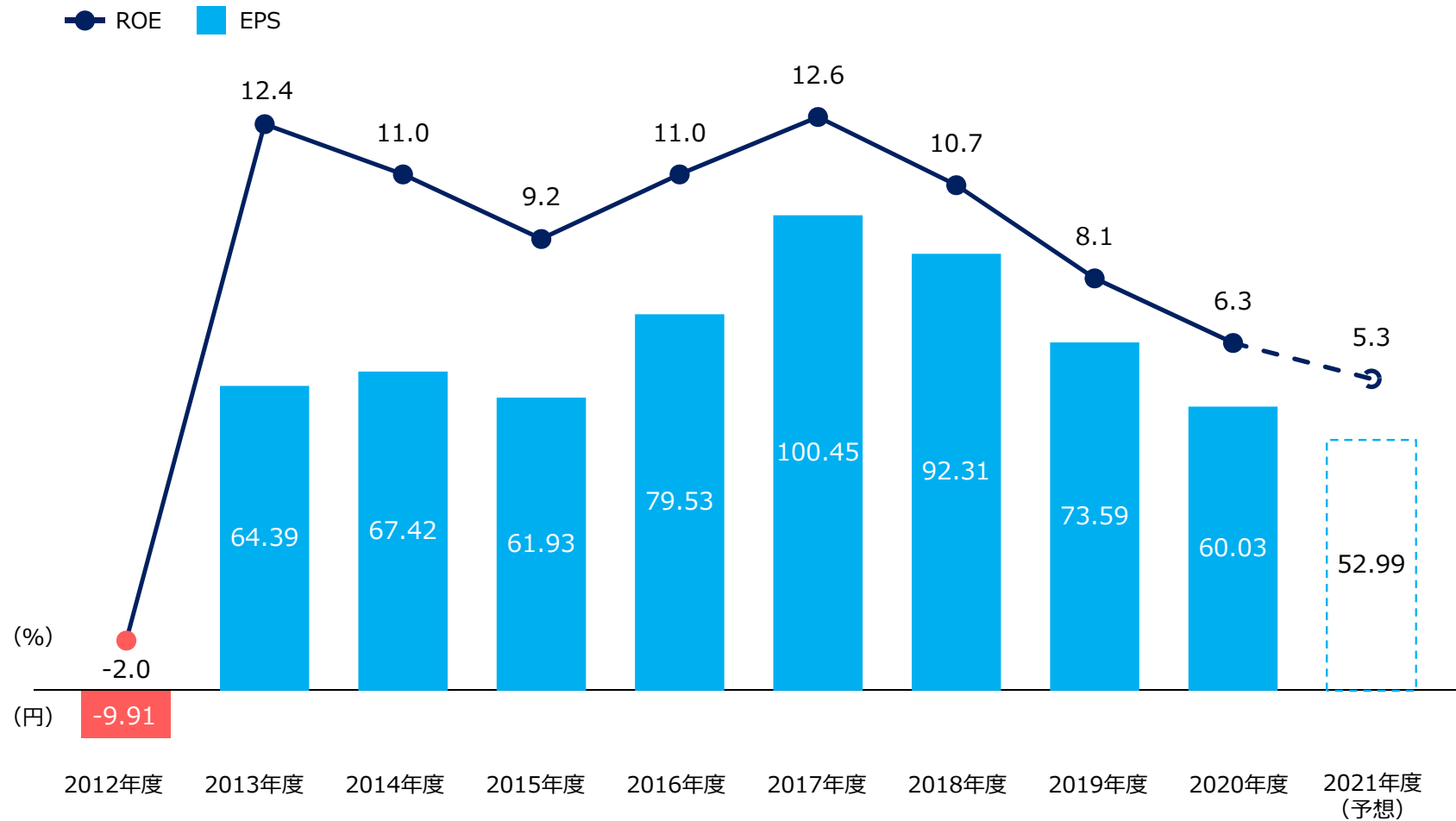
親会社株主に帰属する当期純利益は、2020年度の土地売却等の特別利益がないことから減少する見込み。

(百万円)	2020年度 実績 ※1	2021年度 予想 ※2	前年との増減 (%)
売上高	22,280	25,050	12.4%
営業利益	1,404	2,080	48.1%
経常利益	1,622	2,120	30.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,608	1,420	▲11.7%

※1 期中平均為替レート : USドル = 106.06 円      ユーロ = 123.70 円

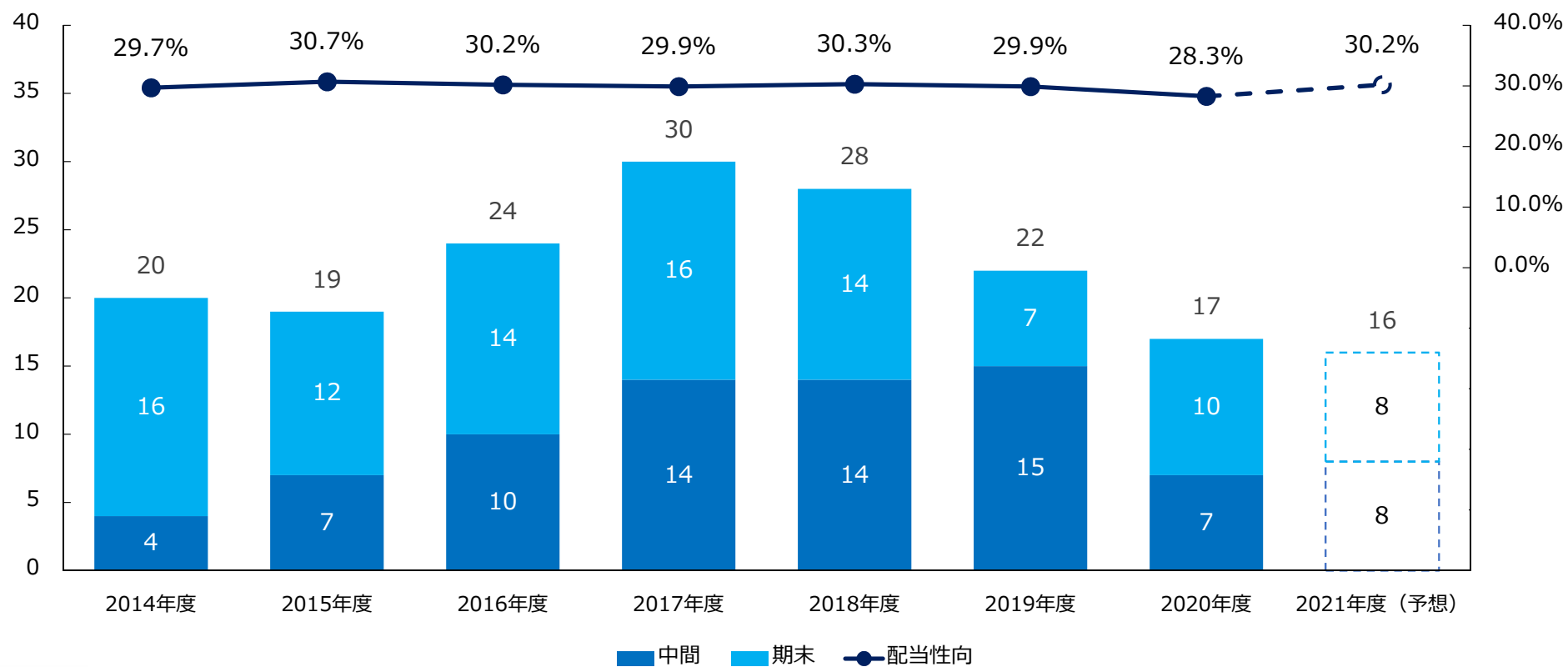
※2 想定為替レート : USドル = 107.00 円      ユーロ = 128.00 円

## ◆ ROE・EPSの推移



## ◆ 配当方針

2014年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。



## ◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

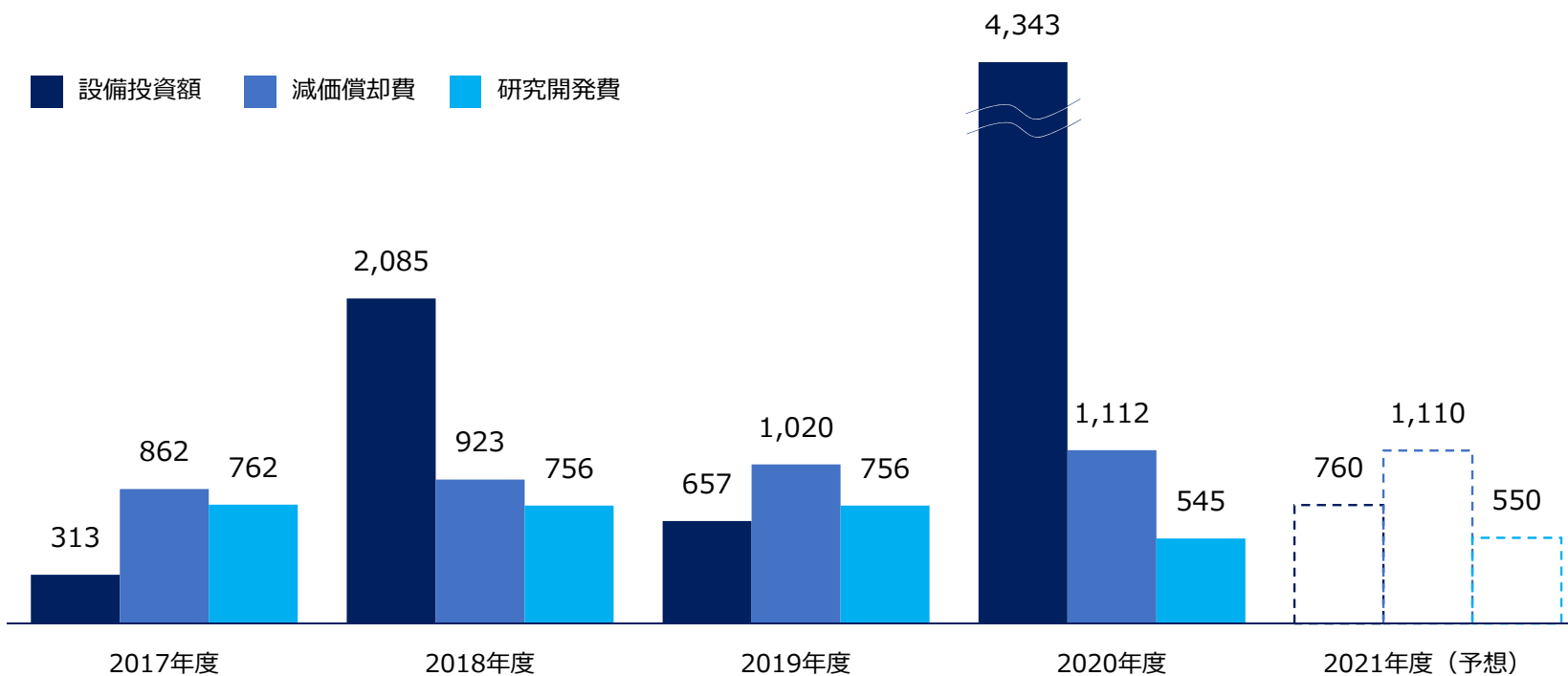
2020年度

- 「新社屋建設関連費用」、「新基幹システム関連費用」など

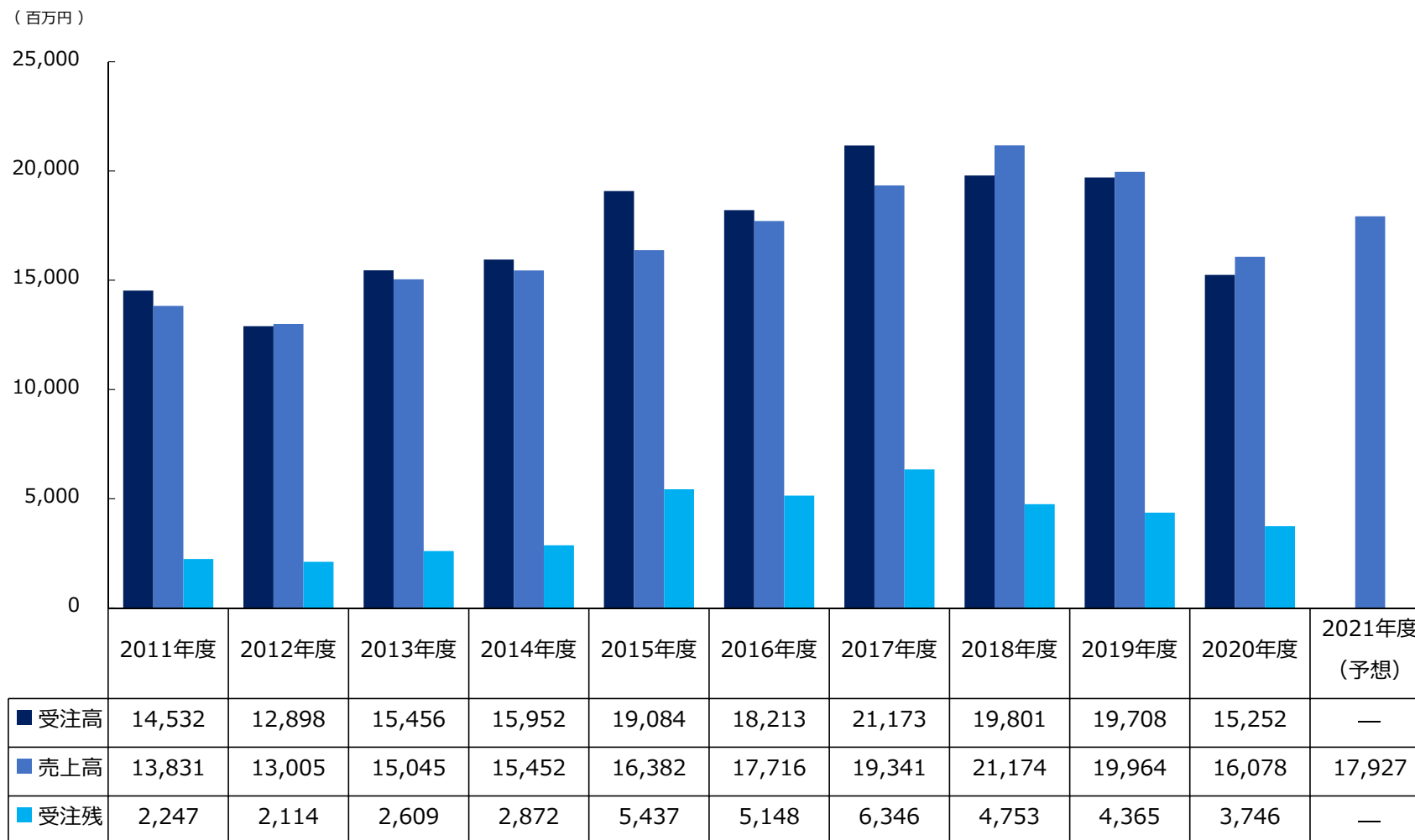
2021年度

- 「製造用機械装置購入」、オレンジベーカーリーにおける「機械装置導入」など

(百万円)



## ◆ ご参考 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本

### 製パンライン等

- 受注残が少なく、大型案件の減少を予想。

### 全 体

- 標準機である包あん機や各種製パンライン等で売上を強化。
- 「人手不足や人件費高騰」「食品のバラエティー化」「健康志向の高まり」「食品衛生」など課題解決の投資意欲は旺盛であり、コロナの収束とともに回復する見込み。

前年比	
売上高計画	+ 6.8%

( 受注残 前年比 ▲ 31.7% )

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米

### 製パンライン等

- お客様への機械搬入がずれ込んだことなどにより受注残が増加。

### 包あん機

- 「中規模アルチザンベーカリーを対象とした市場」「メキシコ発祥のパン コンチャ市場」「餅アイス市場」「中華まん、小籠包などの中華製品市場」へ生産効率化の提案を行い、増収を見込む。

(「コンチャ」…メロンパンに似たメキシコ発祥のパン。)

前年比	
売上高計画	+ 26.0%

( 受注残 前年比 + 47.3% )



## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ

### 製パンライン等

- 巣ごもり需要でパン業界全体の売上は伸長しているため製パン機の販売を強化する。

### 包あん機

- スーパーマーケット等に供給する冷凍食品の需要は大きいことから、調理冷凍食品市場に包あん機の拡販を見込む。

### 全 体

- 消費者の衛生意識の高まりにより、手作業から自動化への要望が高まっている。

前年比	
売上高計画	+ 4.8%

( 受注残 前年比 ▲ 15.3% )

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア

### 製パンライン等

- 中国・台湾・韓国のみならず、オセアニア・東南アジアへの各種製パンラインの販売を進める。

### 包あん機

- 月餅、ミニパン、中華まん市場などに拡販を進める。

前年比	
売上高計画	+ 29.5%

( 受注残 前年比 ▲ 2.5% )

## ◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

### 北米・南米 (オレンジベーカリー)

- 顧客の人手不足や人件費高騰などの課題解決のため、「ホイロ後冷凍パン」の品揃えの拡充を図る。
- 米国市場で根強い人気のあるパイやクッキーの拡販を進める。

前年比	
売上高計画	+ 15.5%

### 日本 (有)ホシノ天然酵母パン種)

- 中国における食品の健康志向が高まりつつあるため、中国市場にパン種の販売を進める。

前年比	
売上高計画	+ 5.2%

**3**

# 中期経営計画 3年目進捗 (2018年度～2022年度)

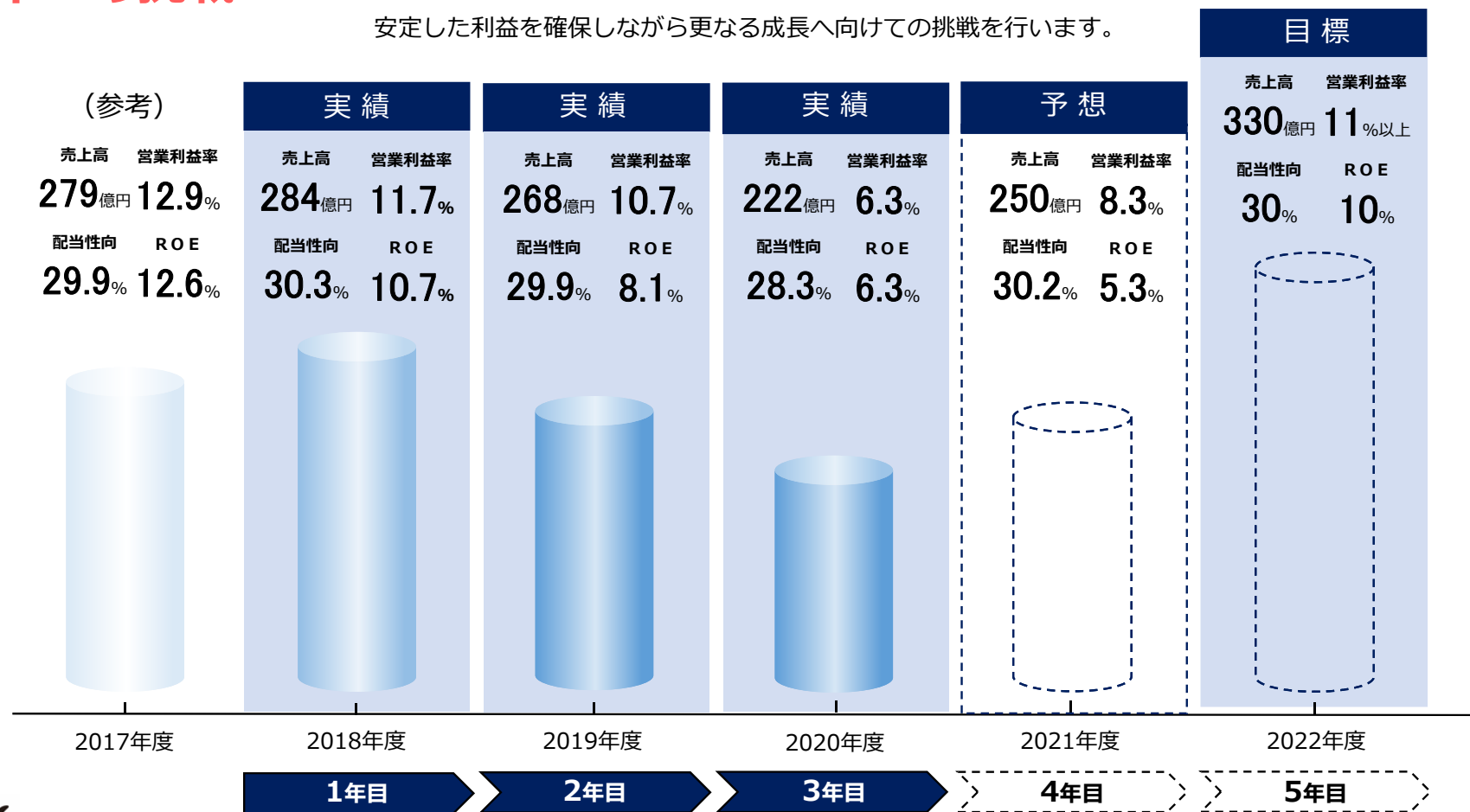
## ◆ 中期経営計画 2020年度 3年目進捗

中期経営計画期間は、

**“変革への挑戦”**

『レオグループの次なるステップへの変革の時期』と位置づけ、

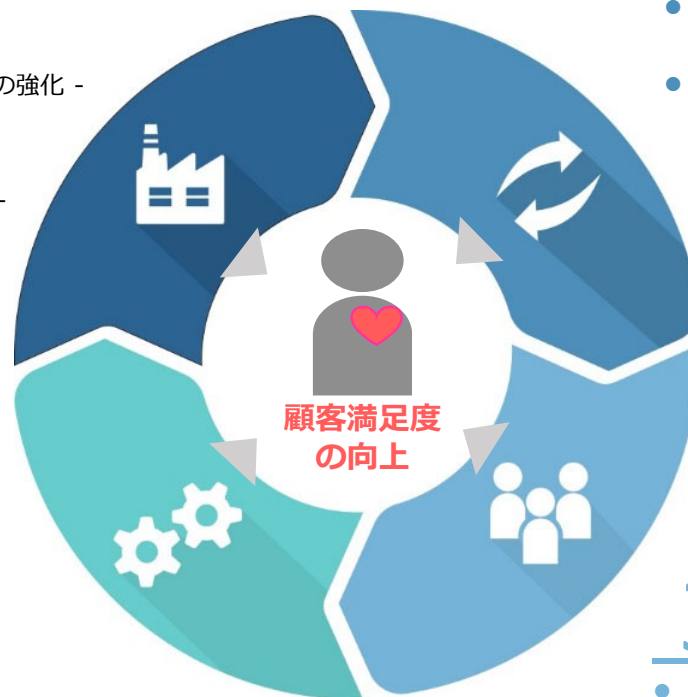
安定した利益を確保しながら更なる成長へ向けての挑戦を行います。



## ◆ 中期経営計画 4つの重点施策

### 1 生産（開発）体制の強化 - 収益基盤・技術力 -

- 受注～生産の体制を見直し、生産性を向上させる。
  - 品質管理の徹底、購買力の強化 -
- 開発設計体制を強化する。
  - モノづくり力の強化、コスト競争力の強化 -



### 2 販売体制の強化 - グローバル活動体制の整備 -

- エンジニアリング事業の拡大をする。
  - ソリューションビジネス強化 -
- 海外販路拡大をする。
  - 代理店網の整備、営業体制の強化 -

### 4 業務環境整備

- 基幹システム刷新等による業務効率化及び生産性向上を推進する。
- 間接部門の現場力を強化する。 - 従業員満足度の向上 -

### 3 人材育成

- グローバル人材を育成する。
- 技術力・提案力を強化する。
- 次世代経営者を育成する。
  - 人材育成プログラムの確立 -

## ◆ 中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

### 1. 生産（開発）体制の強化 - 収益基盤・技術力 -

食品加工機械に求めるニーズは国や地域により多様化し、機械の用途も多種多様化している。

「品質・納期・コスト管理」を徹底し競争力を強化する。

#### ■ 2020年度

##### 主な実施内容

- 技術の標準化及び設計標準化を基軸とした設計業務改革、納期短縮、コスト削減をテーマに、機械性能とコストバランスを図った機種開発に取り組み、国内向け包あん機である「火星CN700」と海外向け包あん機「火星KN050」を完成。
- 生産効率の向上と納期短縮を図るため、新規生産設備を導入。
- オレンジベーカーリーにおいて、人手不足や人件費高騰の課題解決のために、一部ロボット化の生産テストを開始。

#### ■ 2021年度

##### 主な実施内容

- 技術の標準化及び設計標準化を推進し、機械性能とコスト競争力を高め、時代が求めるニーズに柔軟に対応するとともに、研究開発への注力・イノベーションがある商品開発を行う。
- 基幹システム刷新に伴い、業務効率化を図り、コスト競争力を高める。
- オレンジベーカーリーにおいて、ロボットの継続テストを進め、自動化率を高めるとともに、人件費の高騰に伴う労働力確保が課題となっている状況を踏まえ、顧客であるベーカーリーの利便性を向上させるため「ホイロ後冷凍パン」の品揃え拡充を図る。

## ◆ 中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

### 2. 販売体制の強化 - グローバル活動体制の整備 -

さらなる成長に向けて海外市場拡大・社会課題の解決・環境変化への対応が求められる今日、販売体制強化に取り組む。

#### ■ 2020年度

##### 主な実施内容

- Web商談、Web講習会、リモート納入検収の実施。
- 新規顧客の獲得及び既存顧客へのアプローチとして、SNS（YouTube・Facebook）を通じて最新情報を提供。

#### ■ 2021年度

##### 主な実施内容

- Web方式とリアル方式の融合による営業活動の効率向上とコストダウンに繋げる。
- アジア市場（特に中国市場）において、代理店強化のもと販路を拡大し、販売およびブランド力を強化する。
- 社会課題の解決や環境変化の対応（食品ロス・HACCP・賞味期限等）を踏まえた提案力（ターンキー提案）を強化する。



## ◆ 中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

### 3. 人材育成

人材は企業の重要な資産であると捉え、当社の持続的成長を支え維持していくグローバル人材の確保と育成のために人材育成基盤の強化を図る。

#### ■ 2020年度

##### 主な実施内容

- 次世代経営者の育成や各部署内の方針管理（活動計画）の進捗状況が見える化し、社員のマネジメント力を育成。
- グローバル人材育成のために、海外研修制度を実施。

#### ■ 2021年度

##### 主な実施内容

- 研究開発専門職の採用や通年採用により、幅広い人材を確保。
- 「若い世代の教育プログラムの構築および実行」の推進。

## ◆ 中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

### 4. 業務環境整備

中期経営計画の4つの重点施策を実現するため、各領域における業務効率化・生産性向上・人材育成等を進めることが必要。

#### ■ 2020年度

##### 主な実施内容

- 基幹システムの稼働
  - ・ 全社業務を統合化し、業務の効率化・迅速化を図り、顧客サービスレベルの向上と迅速な経営意思決定への活用。
- 新社屋（レオン・ソリューションセンター）の完成
  - ・ 地域災害防止・セキュリティ強化を図り、経営基盤を揺るがす大きなリスク回避をするための体制整備。
  - ・ 研究施設を活用した、「機械確認テスト」「食品開発」「講習会」など、お客様の課題に対応可能な環境の充実。
  - ・ ペーパーレス化をはじめとする業務効率向上策の実施。

#### ■ 2021年度

##### 主な実施内容

- 基幹システムの機能を最大限活かすために新たなシステムを構築し、社員の意識改革を図り、業務オペレーションの見直しなど運用環境の整備に注力する。

## ◆ レオングループのアイデンティティ

### 社 是

# “ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、  
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。  
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが  
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

---

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 添付資料

## ◆ レオングループの概要

会社名	レオン自動機株式会社 (RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.)
所在地	栃木県宇都宮市野沢町2番地3
代表者	代表取締役社長 小林幹央
設立	1963年3月15日
事業内容	食品加工機械製造販売事業、食品製造販売事業
資本金	7,351百万円
売上高	2020年度 個別：140億円 連結：222億円
決算期	3月31日
株式の上場	東証一部上場
従業員数	2020年度 個別：681名 連結：1,056名
関連子会社	国内：2社 海外：3社
※ 国内シェア	包あん機 90%、自動化シートライン 90%以上
※ 総保有特許数	国内 154件、海外 368件 (2021年3月31日 現在)

## ◆ 当社の強み

### ハード・ソフトを交えた販売活動が当社の強み

#### ハード

(確かな技術力)

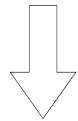
- ◆ 自社独自技術の機械を開発する能力
- ◆ 自社製品の改良によるさらなる価値提供



#### ソフト

(サービス体制)

- ◆ 顧客要望を情報で実現するソフト、開発能力
- ◆ 自社製品で生産される食品の提案による価値提供
- ◆ お客様の生産現場をサポートするメンテナンス力



**お客様と強固な関係を実現**

## ◆ 食品加工機械製造販売事業

### 食品成形機

包あん機やその周辺機で構成された単体



CN700



EZデバイダー



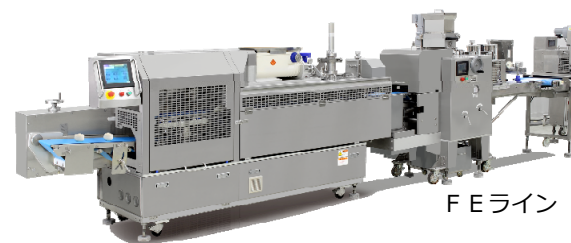
セットパンナー



RHEON

### 製パンライン等

製パンラインを主とした自動化ライン等



FEライン



VMシステム



VX222





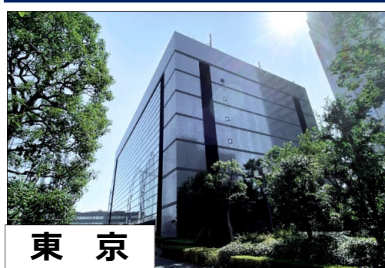
◆ 食品加工機械製造販売事業 国内拠点

機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

栃木県



営業所

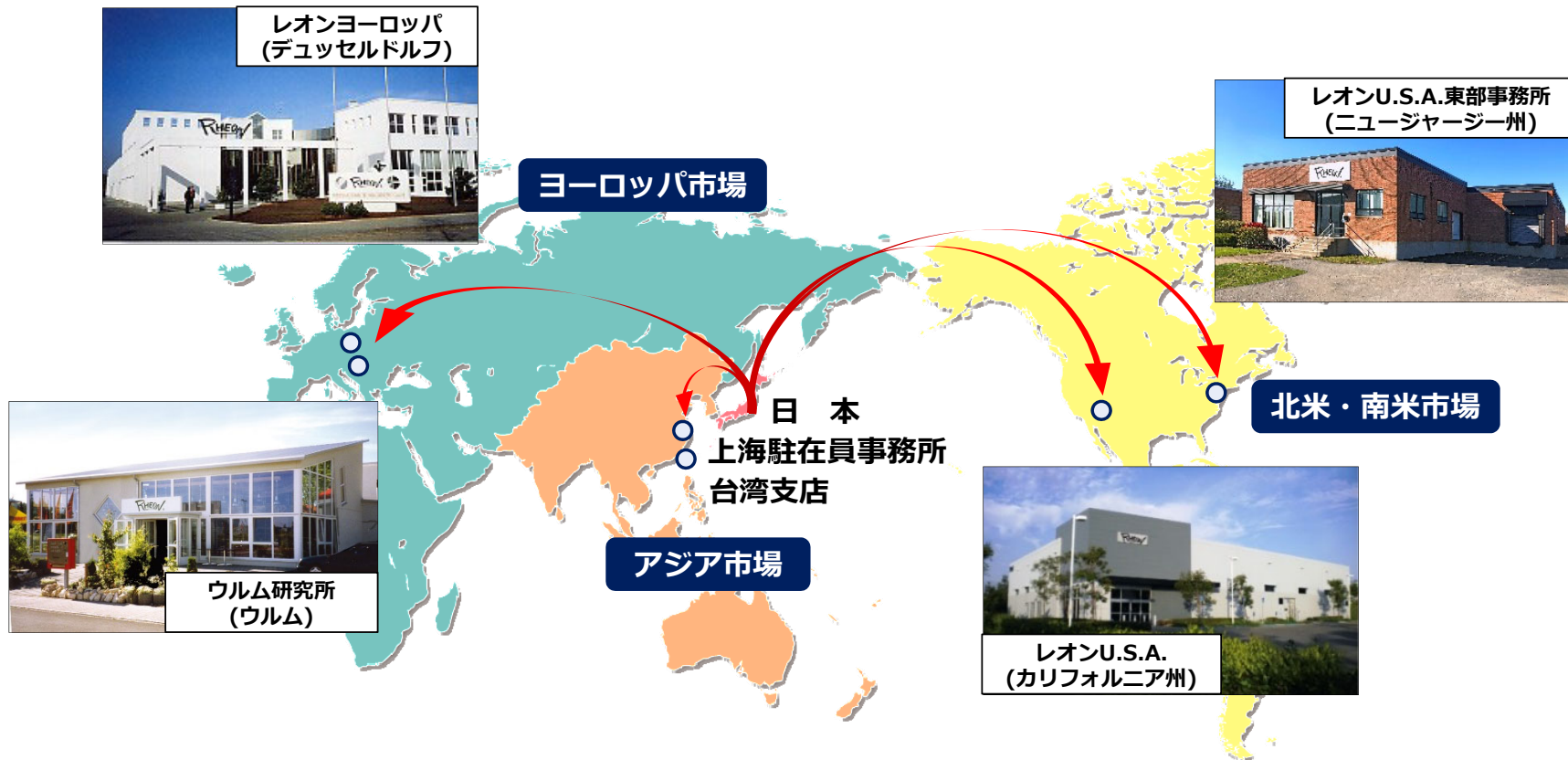


出張所



◆ 食品加工機械製造販売事業 海外拠点

海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）  
世界126の国と地域に機械を販売



## ◆ 食品製造販売事業 国内・海外拠点

### オレンジベーカリー

#### カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



#### ノースカロライナ州

第3工場



- ・ レオン機の実験工場として設立し、クロワッサンなど付加価値の高いパンを製造

- ・ 主に成形冷凍のパンを全米のベーカリー、スーパー、レストラン等に販売

### (有)ホシノ天然酵母パン種

#### 神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ・ ホシノ天然酵母パン種を製造販売

# ◆ SDGsへの取り組みについて

創業の精神で培ったテクノロジーと実績



ビジョナリーカンパニーへの変革

- ◆多様なアイデアとレオロジーの応用による食品機械の開発・販売
- ◆多様な人材の活用
- ◆多様な食文化への対応と技術の展開
- ◆安定した経営基盤の維持

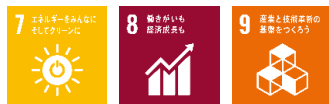
- ◆『存在理由のある企業たらん』を軸に食文化を支えるビジョナリーカンパニーへ
- ◆未来型食品工場へのチャレンジ（オレンジベーカリー工場【米国子会社・製パン工場】完全自動化）
- ◆気候変動に強い完全自動化食品工場へ
- ◆強靱で持続可能なバリューチェーン

事業を通じて



- ◆食の安心・安全・安定供給
- ◆食品ロスの削減 ◆食品製造業の安定産業化
- ◆イノベーションによる美味しさと食文化の伝承

ビジョナリーカンパニーを目指して



- ◆“美味しさは世界を一つにする”の実現
- ◆食品工場の完全自動化 ◆業種を超えた連携
- ◆省エネルギーと生産効率向上による安定した食と職の提供

社員教育&ESGを強化して



- ◆社員一人一人がSDGsの精神を理解し行動する環境整備
- ◆省エネや温暖化防止設備への切換 ◆Society5.0の実現

<SDGs達成に向けた重点的な取り組み> 「とちぎSDGs推進企業登録制度」

販売機種への高効率  
モーター搭載  
100%

販売機種のIot化  
目標 50%

女性管理職の登用  
+20%

全社での  
CO2排出量削減  
-10%



※ 詳細は当社ホームページ「SDGsへの取り組みに向けて」をご覧ください。